

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です) グループホーム桐の家

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしい生活の実現に向け、下記を理念として日々頑張っています。 ・のんびり ゆっくり その人らしく ・穏やかで安らぎのある暮らし ・自分でできる喜びと達成感のある暮らし ・自分らしさや誇りを保った暮らし		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は常日頃、職員に上記理念を実践に生かせるよう話をしており、正面口、壁に大きな理念を掲示し、管理者、職員共に理念を共有しています。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	法人全体で発行している季刊誌「春夏秋冬」にて施設の情報提供を行い、ご家族、社会福祉協議会、市役所介護高齢か、運営推進協議会委員、地域の医療・福祉関係機関等に送付しています。施設内や入居者の生活を知っていただくために「地域交流会」を開催し、地域の方々と交流しています。	○	市の公共施設を利用して、入居者の作品の展示も計画しています。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	施設が民家の多いところにあり、散歩途中や外気浴をしていると挨拶などの声掛けをしていただいています。雨が降ってくると干してある洗濯物の心配をして連絡を下さる方もいます。避難訓練の際、近隣の庭をお借りして、有事の時に備えて一緒に訓練に参加していただいています。	○	「地域交流会」を今後も毎年行なえるように努力して行きたいと思っております。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	庭が広いため、育成会のお祭り時休憩場として提供したり、保育園児の散歩の途中の休憩場となり、交流する機会があります。地域のお祭り、近隣の工場のお祭り、小学生の運動会などの見学をして、交流できる努力をしています。近所の方が自宅の花の苗を持ってきてくれたり、犬の散歩の際、グループホームへ寄ってくれる事もあります。又、週一度利用しているゴミステーションのそうじを入居者と職員で行なっています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>グループホーム運営推進会議の中で認知症についての知識や対応等に関して役立つリーフレットを配布したり、認知症についての質疑応答を行い、グループホームとしてできることがないかと考えています。</p>	○	<p>市の厚生会館や法人内の老健施設にて作品を展示してきましたが、今後も市の公共施設を利用して、入居者の作品の展示会を行い、グループホームでの活動をアピールしていきたいと思っています。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>定期的に評価の定義を話し合い、運営者、管理者、職員ともにより良いサービス提供が行えるように努力しています。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は2ヶ月ごとに開催しています。各委員さんから出された意見は、今後のサービス向上に活かすようになっています。会議で出された意見は、職員で共有し新たな企画を立てたり、改善する努力をしています。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>1ヶ月に1度定期的に市より委任された介護相談員が来訪して、入居者の方々と直接お話していただいたり、市の介護高齢課の担当者とも随時連絡を取り、介護相談員の意見を聞くようにして、サービスの向上や個々の要望をかなえるように努力しています。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>以前成年後見人制度を利用された入居者がおり、制度の理解や利用の意義や難しさ等、職員は勉強させていただきました。このケースを基に必要な方への活用をスムーズに対応できる様に今後とも努力していきたいと思えます。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止に関する研修を行い、虐待についての理解を深めるようにしております。管理者としても常日頃利用者や職員の日常生活を観察し、虐待と見なされる言動がないか注意を払っています。</p>	○	<p>身体拘束や、虐待について職員間での話し合いを持つ機会を増やし、無視することも虐待に当たるため、極力利用者の話に耳を傾けるようにしています。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には重要事項説明書や契約書について説明を行い、さらにご家族に疑問があったり分からないことは具体的な説明をさせていただき、不安が残らないようにしています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	グループホーム内及び相談窓口受付に意見箱(投書箱)を設置しております。又、管理者として入居者と直接接する中でご意見が伺えるよう問いかけを行っています。運営者の代表として事務長が定期的に施設を訪れ、直接入居者の意見を吸い上げる様にしています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日々の生活の様子はご家族の面会の際に伝えるようにしています。健康状態の変化や必要に応じてその都度電話やメールで報告をしています。金銭については個人ごとに出納帳を作り、家族の方に確認を頂くようにしています。レクリエーションや行事を知っていただくために行事予定や行事の際の写真や作品等を施設内に貼ってあり、情報誌にも行事の報告を出させてもらっています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情のあった場合には、職員間で検討し、改善できることは早急に行い、御家族に安心していただけるように改善策を話し、努力しています。毎年12月には御家族にアンケート用紙を郵送し、御家族からご意見を伺えるような取り組みを行っています。	○ 苦情、不満を職員間だけでなく、運営代表者や協力医療機関と連携して改善を図るよう努めています。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は、管理者がまとめ、運営者に報告するようしております。運営代表者である事務長も定期的に施設にみえ様子を見るようにし、できるだけ意見を反映させる対応を行っています。	○ 入居者が庭に出て散歩やレク等ができるよう、職員間で意見をまとめ、運営代表者に庭の整地を依頼し、実現できました。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	グループホームで行う行事等がある時は、その行事に対応できる人員配置を行っています。管理者は他の職員の都合が悪いときは日程や時間帯の調整を行って円滑に業務をこなせるようにしています。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在の管理者はグループホーム設立当初より在籍しています。異動や交代はできるだけ最小限となるよう努力しています。男性職員が1名おり、積極的に将棋をさしたり、畑仕事や力仕事を行い、入居者に喜ばれています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人として開催する認知症や救命救急、消防消火訓練等に関する研修への参加を求めたり、毎年開催されるグループホーム大会への参加をしています。又、直接サービスを提供する職員に対しては、介護関係の資格を取得するよう促しています。</p>	<p>○</p> <p>外部研修を受けたスタッフから、受講した内容を基にして内部研修を行い、スタッフの介護技術向上に役立っています。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人内にあるグループホームプランタンの家との合同レク、夏祭り参加、運動会等を実施することで、入居者や職員同士の交流を深めるようにしています。グループホームレベルアップ研修に参加し、他施設の状況を学び、新しい知識や技術を取り入れ、スタッフの技術向上に取り組んでいます。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員間の人間関係のトラブルや介護に対する疑問や質問には母体老健の運営代表者に相談できるようにしており、職員からの悩みや不安に適切にアドバイスができる体制を整えています。</p>	<p>○</p> <p>定期的にケア会議を兼ねた食事会を行ってストレス軽減をしています。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>管理者や職員の都合を聞きながら、勤務表を作成し、個々に合わせた勤務が行えるようにしています。又、介護に関するリーフレットや書籍等を随時渡し、定期的にケア会議を行い、介護に対する不安感が取り除けるような知識を提供できるようにし、介護への自信が持てるような取り組みを行っております。</p>	<p>○</p> <p>行事計画を立てる担当スタッフを決め、職員全員がどんなことでも対応できるように取り組んでいます。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>御家族様より、御家庭での様子を伺ったり、入居前にご本人と面談したり、他施設でのご利用時の様子等情報収集を行い、ご本人の希望や困っている事等の把握に努め、入居後は本人とのコミュニケーションを多く取り、できるだけ早いうちに信頼関係を作るようにしています。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居希望の相談時に、御家族より、ご本人の歩行状況や生活状況、病院との関わり、体調、困っていること、御家族との関わり方、御家族の困っていること、ご希望等把握して、ケアに生かせるように努力しています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人、家族の相談を受け止め、本人にとって一番ふさわしい状況を実現するために、施設相談員、在宅ケアマネージャー等との連携により、グループホーム以外のサービスの検討も行い、適切なサービスの提供に努めています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご利用が初めての方であれば、グループホームでもショートステイやデイサービス等を利用しながら徐々に慣れていただければ良いと考えております。できるだけご本人と御家族一緒に見学していただき納得していただいた上で、入居していただくようにしています。御家族や介護支援専門員との連携によりご本人が安心していただけるよう心掛けています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人の持っている力を最大限生かせるように、簡単な調理、居室の清掃、庭の手入れ、食堂のテーブル拭き等の日常生活に必要なことについて職員共に行っていただいています。レクリエーションや行事等の中で昔からの歌や風習、料理等、お年寄りから学ぶことも数々あります。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の要望や必要な日用品などがある時、又は体調不良等がある時は御家族に連絡し、ご本人にとって一番良い方法を一緒に考えていくようにしています。又、納涼祭や花見、家族交流会、誕生会等行事がある時には、参加をお願いして一緒に楽しい時を過ごせる機会を設けて、笑顔を増やすようにしています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	御家族にはご本人の入居前の様子を聞いたり、施設内の状況を随時報告したりして、御家族との関係を円滑にすすめられる様に心掛けています。家族交流会を1年に1度開き、家族と利用者様のコミュニケーションをとっています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族にはグループホームに入居されても、これまでの交流のあった親類知人にも気軽に会いに来ていただける様に、話をしています。又、御家族に手紙や電話をしていただいたり、外出する機会を作っていただけるようお願いすることもあります。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の個性を大切にして、気の合う人との交流を大切にし、会話に入れない人には職員が声掛けて共通する話題を提供したりして、孤立しないようにしております。気の合う利用者同士の席を近くにしたりトラブルになりやすい利用者同士は少し距離をおくようにし、出来る限りグループホームが安心できる場所になるように工夫しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された御家族が今もボランティアで定期的に来ており、今でも交流が続いております。又、母体の老人保健施設へ移った方などには、職員が面会に行くこともあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時にアセスメントを行い、ご本人の希望や家族の意向をふまえ、ケアプランの計画を立てるようにしています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	診療情報提供諸から病歴を、ご本人、御家族からサービス利用状況や生活歴、生活習慣等の情報提供を受け、ご本人にあった生活が続けられるようケアの実施に努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者の毎日の生活状況をしっかり把握し、持っている能力を最大限に生かせるように職員は見守り、介助等を行い、入居者が充実した日を過ごせるように努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	グループホーム介護計画の中で、ご本人や御家族の意向を聞き、又、御家族と職員でどのようなケアがご本人にとって一番良いかを定期的に話し合い、介護計画を立てて、御家族の確認を頂いています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月ごとにモニタリング評価を行い、3ヶ月ごとに見直しを行っています。心身状況がかなり変化した場合は必要な関係者と相談し、介護計画を見直し作成を行うようにしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のバイタルチェックをはじめ、一人一人の顔色や心身状況を把握し、個人用のカルテに記録しています。又、気付いた事やケアを変えた方が良い場合等、会議を開き、情報交換を行いケアの変更や見直しに活かしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	短期入居、通所介護、入居のサービスを御家族の状況に合わせて、利用できるよう支援しています。現時点では通所介護のご利用者はおりませんが、短期入居と通所介護を併用して利用され、御家族が安心された例があります。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアとして絵手紙教室、ダンス教室、体操教室、傾聴、うどん打ちの先生に訪問していただいております。又、母体の老人保健施設には太極拳、三味線と民謡等の慰問があるときは出掛けて参加させていただいております。年2回の避難訓練を消防署に協力をいただき行っております。	○	町のボランティアグループが来苑し、ゲームや歌、料理の日にはお手伝いをいただいております。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスの活用の支援はしたことがありませんが、必要な方がいらっしゃれば支援は行いたいと思っております。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	認知症という病気の関係上、権利擁護事業及び成年後見制度は必要と考えております。成年後見制度を利用された入居者の方がいらして、地域包括支援センターの方と後見人の方と協働して、支援した経緯があります。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や御家族の希望に応じて外来受診やかかりつけ医の往診をお願いし、適切かつ円滑な医療処置が行える体制を整えております。夜間の体調不良時にかかりつけ医と連絡をとり、往診をお願いすることもあります。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	その人の性格や人生経験等の情報を収集して、その人の尊厳やプライバシーに配慮して、人生の先輩として尊敬の念を持った言葉掛けや対応を心掛けています。ホール内に個人情報に関する基本方針及びグループホームの倫理綱領を掲示しています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご本人の希望することが何であるか、常に何をしたいか、どのようにしたいのか、声を掛け、できるだけ援助できるようにしています。買い物に行きたい方は買い物へ、散歩やドライブもできる限り行っています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の今までの過ごし方や生活に密着し、自分のペースで生活できるように、御家族と相談しながら安心してグループホームでの生活をおくっていただけるように援助しています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その人の趣味や意向にあったおしゃれができるように支援しています。理美容訪問サービスを利用し、ヘアカットや顔剃り、カラー、パーマ等選択できるようになっています。又、御家族がカットしに来て下さっている人もいます。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士の作成したカロリーや栄養バランスを計算したメニューを提供しています。食卓の準備から後かたづけまでできることは利用者と職員が一緒に行っています。食べられない食品については代替品を提供しています。	○ 庭で採れたふきのとうで料理を作り、梅干し作りを通して、季節を感じるようにしたり、ジャガイモ、ナス、キュウリ、トマト等野菜作りも行い、料理に使用しています。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	御家族が面会に来た日だけお酒を飲んでいただいたり、御家族がお持ちになった飲食物はその場で召し上がっていただき、残った場合には、腐敗や誤嚥を予防するために職員が預かり、必要に応じて食べていただいています。おやつ等、好みを聞き、作ってお出しすることもあります。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンを把握した上で、トイレ誘導を行い、出来る限りトイレで排泄するように支援しています。失禁等に気付いたら早めに対応し、ご本人が気持ちよく過ごせるように支援しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご本人の心身の状況を把握した上で入浴を実施するようにしています。1ユニット週3回の入浴ですが、他ユニットで別の日に入浴しておりますので、希望があれば入浴できます。入浴の時間はだいたい決まっておりますが、その中で希望を聞き行っております。状況により、シャワー浴や足浴、部分清拭は適宜行っております。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転気味の方には日中起きていただけるように援助していません。食後は、食休みができるようにテレビを見たり、ソファや自室でくつろいでいただいております。部屋は必要に応じて換気やエアコンの設定をまめに行い、かけ布団の調節を行ったりして、安眠や休息に適した環境を整えるようにしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の性格、個人特技を把握し、その人らしく生活できるよう援助しています。絵手紙教室、折り紙、貼り絵、歌、読書、将棋等の趣味や掃除や食器片付け、洗濯物を干す、たたむ等の家事をお願いしたりして、生きる楽しみを見つけられるように援助しています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を自分で管理できる方は、ご自分で管理してもらっています。ご自分で管理が困難な方は職員が預かり、買い物の際本人に品物を選んでいただき、本人にお金を渡し、ご自分で支払いができる様に支援しています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気がいい日には近所を職員が付き添い散歩したり、庭の花や野菜の手入れをしたり、庭で外気浴をしたりしています。又、関連施設である老人保健施設へ職員が出掛ける時や、催しがある時は車で一緒に行く事もあります。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に1回程度はドライブ計画をし、出掛けるようにしています。それ以外にご本人の希望で個別に買い物等に出掛ける事もあり又、御家族にも協力をいただき、お墓参りやご自宅に連れて行っていただくようにしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族からの電話や、入居者の希望で電話をしたいときは取り次いでいます。絵手紙教室で書いていただいた絵手紙を暑中見舞い、年賀状として御家族に出しています。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に面会していただいております。面会時には面会簿にご記入していただき、いつ、誰がどなたに面会されたかを記録しています。面会時は居室又はホール等にてゆっくりとくつろいでいただいたり、レクリエーションに参加していただくこともあります。	
(4)安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束に対する勉強会を開き、身体拘束となる行為はしないことを理解しており、現在対象となる方はいません。ベッドからの転倒、転落の危険性がある方には、ベッドを低くしたり、床で休んでいただき、見守りや声掛けを強化しています。	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各居室の鍵はありません。玄関は職員の目の届く日中に限り、入居者の状況により開けている様心掛けています。但し、階段のある戸については転落の危険回避をするために日中でも鍵をかけるようにしています。又、通常はエレベーターを使用していただいております。	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	各居室の扉には、小窓が設置されており、入居者が自室で過ごしている様子を随時見守ることができるようになっております。但し、巡視が嫌な方は、小窓に覆いをしていただくことも可能です。居室にいるときは、必ず声掛けし、プライバシーに配慮しています。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁など取り扱いが危険な物については、夜間台所内を施錠しています。はさみや文具類、内服薬や外用薬等はロッカー内に施錠のうえ保管しています。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止マニュアルについて定期的に勉強会を開き忘れないようにして、防止するように取り組んでいます。又、事故及びひやりはつと報告書等を発生時に記録し、大きな事故にならないように検討するようにしています。誤嚥防止のために、食事形態を変えることもあり、もし物を喉に詰まらせてしまった場合に備え、いつでも吸引セットが使用できるようにしています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	週1、訪問看護ステーションの看護師と医院の医師と看護師が診察に来ており、状況により治療に来てくれます。入居者の健康管理を行っております。職員が救急救命講習会等に参加した上で、内部研修を行い、急変時の対応ができるようにしています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	関連の老人保健施設には、昼夜スタッフが常駐しており、非常災害時には救助を求められる体制ができています。年2回消防署職員の指導にて避難訓練、消火訓練を行っております。御家族や地域の方から防災協力員を募集して、何かがあるときはお手伝いいただけるようになっています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	グループホーム内ではできるだけご自由に暮らしていただくことが前提ですが、その際加齢、病気、認知症に伴うリスク(転倒、誤嚥等)については、入居時、介護計画説明時に御家族に説明し、ご理解を得るようにしています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	全入居者に毎日血圧、体温、脈拍、SPO2等のバイタルをチェックし、又、食事量、水分摂取量を温度板に記入し日々の体調把握に務め、体調が悪いときや顔色の変化等、申し送りノートに記入し、職員間で話し合い、情報を共有するようにしています。医師や看護師との連携により、体調不良の際の速やかな対応を心掛けています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての研修を職員が受け、薬に対する知識をより深め、必ず服用できるように努めております。バイタルチェック等で体調が悪くなった場合は、施設内看護師や医師や看護師の指示を仰ぐようにして、病気の早期発見に努めています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の状況把握に努め、記録しております。便秘気味の場合や予防として、水分補給や適度な運動を行ったり、牛乳の摂取やお腹のマッサージ、薬の調節等で排便が促されるように工夫しています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に口腔ケアができるように促し行っております。出来る方はご自分でしていただき、できない方はケアを行い、入れ歯の方は、夜間は職員が管理させていただいています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作成した献立により、バランスの良い献立を提供しています。個人の好みや状況に応じた食事形態を工夫し、粥、キザミ食、ミキサー食、代替食品等を提供しています。誤嚥がないようにとろみ剤を使用している方もおります。食事量や水分量を確認し、不足がないようにしています。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルに基づき、対応しています。月1回老健での感染症予防会議に出席し、職員間に徹底するようにして予防に努めています。インフルエンザについては予防接種をお願いしております。毎日、手洗い、アルコール消毒、うがいなどを行っています。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	厨房で食材の衛生管理はしていただき、食事の配送時も熱い物と冷たい物は区別しています。調理器具や布雑巾は消毒も随時行っています。冷蔵庫内の食品管理や清掃も定期的に行っています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花壇に花を植え、家庭的な雰囲気を作り、来訪者を迎えられるようにしている。庭の一部を舗装して、気軽に庭で体操やレクを行ったりして過ごせるようにしました。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼ホールが南側に面し、出窓になっていて外が見られるようになっており、隣家の木が季節感のある花を咲かせ、紅葉が楽しめたり日々入居者、スタッフ共に季節感を味わっています。又、手作りのカレンダーを作成し、入居者に毎日日付を変えていただいています。季節ごとに行事予定や手作り作品、絵手紙等を飾っております。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂では、気の合う入居者が隣り合うように検討し、席順を決めています。ホールにはソファや椅子があり、入居者同士、談笑できるようにしていたり、将棋やパズルゲーム等、入居者同士で楽しめる工夫をしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはベッド、ダンス、物入れ、エアコンが設置されています。そのほか布団や身のまわりの品は今まで使用されたなじみの品をお持ちいただくようお願いしております。入居者のお好きな様に作成した工作物や写真も飾っていただいています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の清掃の時は窓を開け、換気をまめにしております。空調は各居室にエアコンが設置されており、体調や天候に合わせて、まめにコントロールしています。各居室には炭を置き、気持ちよく過ごせるように環境を整備しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	外から玄関、ホール、廊下、居室、エレベータ、トイレ等すべてバリアフリーとなっています。車椅子でも自由に移動できます。トイレ、浴室、廊下には手すりを設置して残存機能を活かし、自立した生活ができるようにしています。危険回避のため、廊下等に障害物を置かない工夫をしています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者一人一人の特徴や、性格を尊重し、清掃や食事の準備、片付けや洗濯物を干すことやたむ事等、できることを職員と一緒にしています。排泄時の失敗が防げるように早めのトイレ誘導等を心掛けております。失禁等で汚してしまったときにご本人が不安にならないようにケアをしています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭や玄関の花壇には、入居者が植えた花や野菜などがあり、水やりや手入れを行っています。庭に椅子を持ち出し、外気浴やお話の歌のレクリエーションを楽しむことも行っています。	○	花壇の前に手すりを設置し、気軽に外へ行ける様になりました。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

一人一人、歩んできた経歴の違い、個性や精神及び身体状況を把握し、「のんびり・ゆっくり・その人らしく」の理念に沿って、その人にあったケアの実践が行える様に、職員一同努力しています。入居者が楽しく暮らしていける様に、昔取ったきねづかを生かし、畑仕事や花の水やりを一緒に行ったり、料理作りや後片づけ、掃除、洗濯など行える様に見守り、介助を行っています。グループホームを大きな一つの家族として、職員とは親子・孫のように話をしたり、歌を唄ったり昔の遊びや折り紙をしたりして1日を過ごしています。今年は特に、庭を整備したので外に出る機会を設け、庭にいたり散歩をしていると近所の方が声をかけてくれたりします。地域のお祭りで育成会の御神輿が来てくれたり、保育園児の散歩コースで寄ってくれたり地域の方との触れあいを大切にしています。又、グループホームの人達で何か出来ることはないかを考え、週1回ですがゴミ収集場を清掃しています。その他活動として、2ユニットの特性を生かし、合同でレクリエーションや運動会を行ったり、弁当を作り、全員でお花見に行ったり、ドライブや外食に出掛けたりしています。市主催のお祭りの見学や、近くの小学校の運動会には応援などに出掛けています。開設当初より入居されている方も数名おり、体力低下を防ぐために体操・リハビリに重点を置き、ラジオ体操・リハビリ体操・声だし口腔体操や立ち上がり運動を毎日行っております。ボランティアの来訪も多く、ダンス・絵手紙・歌の先生が定期的に来て下さり、リハビリを兼ねた活動を行って下さっています。地域のボランティアグループの訪問も月1度あり、色々な事にご協力いただいております。その他不定期ですが二胡やアコーディオンの演奏会、体操ボランティア、傾聴ボランティア、うどん作り等の方々が来て下さいます。身体状況には常に注意を払い、主治医との連絡・相談はまめに行い、身体状況が変化した時は、希望により老人保健施設への移動もスムーズに行える様に連携体制を整えております。